

平成19年第4回定例会の概要について

H20.1.18 生活部文化振興室

予算決算常任委員会について

- 1 期 日：平成19年12月10日（月）
- 2 説明事項：「平成20年度当初予算要求状況」について
- 3 質疑事項
 - ・（質疑）事業費はいつ提示するのか。それが明示されないと県民も判断できない。
 - （部長）超概算の事業費は示せるが、最終的な金額は基本設計の策定後になる。他の博物館の金額も参考にすが、建物の規模を基礎に概算額を示しても、結果として（当初示した金額から）かけ離れた額になることもありうる。
 - （質疑）当初示す概算額と基本設計後の金額が異なるのは当然であるが、あまりかけ離れた金額にならないようにしていただきたい。

総務生活常任委員会について

- 1 期 日：平成19年12月14日（金）
- 2 説明事項：「三重の文化振興方針（仮称）」（中間案）および「新博物館のあり方について」（素案）について
- 3 質疑事項
 - 【博物館のランニングコストについて】
 - ・（質疑）これまでの説明のなかにランニングコストに対する考え方で示されていないことは問題ではないか。独法（独立行政法人）などの方向にならざるを得ないのではないかと思うが、どのように考えているのか。
 - （部長）施設規模や運営形態、どのくらい人が必要で、組織としては、どのように、ということについても、基本計画の中で、明確になってくると考えており、これが決まらないとランニングコストも見えない。
 - ・（質疑）県民に新博物館のことを聞くと、あったほうがいい、となる。一方、ランニングコストの問題があり、三重の財政の中で、ランニングコストをもつ体力があるのか。
 - （部長）総合文化センターは、指定管理者制度を導入し、効率的な運営を工夫し、寄付がもらえるような形でやってきており、県としてのランニングコストは抑えてきた。新博物館の建設にあたって、ふくらんでいく形にならないよう制度設計をしたい。また、総務部ともランニングコストがかかることを前提としたフレーム設計についてお願いをしていきたい。
 - ・（質疑）維持管理費をライフサイクルコストとして明快にしていくことが大切。基本計画策定費を認めていくと、段々に認めていくことになりはしないか。

受益と負担、維持管理費といったことを明快に議論できる場が必要なのではないか。

(部長) 基本計画が策定された時点では、ある程度明確になると思うが、それまでに、イメージでも、建物の大きさ、事業費、組織の仮定をして議論していくことが必要といわれるのであれば、作っていかざるを得ない。

【博物館のスタッフについて】

・(質疑) 博物館を愛する人がどのくらいいるか、ということが、博物館を支えることになる。「自分達の博物館」としての思いをもち、説明するようなボランティア、専門家などのスタッフがどれくらいいるかが問題。東紀州の語り部のような組織をつくっていったらどうか。立派な建物を建てても、人がしっかりしていないとだめ。生活部長としての考え、意気込みはどうか。

(部長) 県民とともに発展する博物館をイメージしている。県民参画や人材育成について、今後、県が具体的にやるべきことを整理いたしたい。県民参画のベースを踏み外せば、建設できないと思う。新博物館は、県民参画が大きな特長となるだろう。

・(質疑) 美術館ほど専門的なスタッフを入れなくてもいいかもしれないが、各分野のスタッフ、有識者を揃える必要がある。 要望

【県民の意見の反映について】

・(質疑) 博物館を要望している人たちに聞いたのは、今の収蔵物を保存する機能をまず作ってほしいということだった。財政的に厳しい中、どこまででもいいのか、というところもあり、県民に納得いただけるよう具体的なところを見せていく必要がある。

(部長) 明日から5か所で県民懇談会を開催する。パブリックコメントを含め、いただく意見を整理して、県としての案をまとめ、第1回定例会に提出するよう努力したい。

・(質疑) パブリックコメントや県民懇談会で出された意見は、審議会に反映しないのか。

(部長) 審議会の答申と、第1回定例会で説明する基本構想に反映していく。

【博物館事業費の概算について】

・(質疑) イメージは大事。(10~20億の話なのか、100億~200億の話しであること) 建設をやめよということではなく、県債残高1兆円などの財政状況のなかで、本当に持続可能なのか、財政の弾力性を阻害しないのか、維持管理費が負担できるのか。道路、福祉も必要な中シビアな議論が必要と思う。

(部長) 20年度中にその議論をしようとしていたが、どうすべきか、(前倒しすべきか)を整理させていただきたい。

・(質疑) 部長から、委員の質問に対して、概算イメージを出すということが言われたが、実際には、他県の事例をもってきて当てはめるだけでは、危険なのではないか。委員も三重県としての案を議論する意味で言われたと思う。基本計画を策定して、三重県としての考え方がまとまってからでないと、議論はできないのではないのか。

回答はなし

【博物館の意義について】

・(質疑) 今明確にしないといけないのは、「なぜ今博物館なのか」ということであ

と思う。文化審議会との意見交換においても、審議会の会長から、そのあたりを議論して、明確に示していくといわれたが、最終案になるのか。ぜひ、なぜ今博物館なのか、という考え方を示していただきたい。 要望

予算決算常任委員会分科会について

- 1 期 日：平成19年12月14日（金） 常任委員会終了後
- 2 説明事項：「平成20年度当初予算要求状況」について
- 3 部長説明（常任委員会での概算事業費に関する質疑応答のまとめとして）
 - ・ 2月の文化審議会からの答申、県議会の提案、県民意見などを踏まえ、県として基本構想（案）をまとめ、第1回定例会冒頭で報告する。これを議会で検討いただいた上で、年度末までに基本構想を策定したい。
 - ・ 基本構想は、20年度の基本計画策定のための基本とするものなので、立地場所や施設概要を明確にする必要がある。
 - ・ 9月に基本計画の中間案をまとめ、事業費や維持費の見通しを出せるよう努力したい。中間案については、パブリックコメントや県民懇談会を実施、県民の意見を聴くこととしている。
 - ・ 20年度予算には、広聴広報費を計上しているが、計画づくりに県民の参画を促すため、基本構想の内容を周知する目的で、講演会の開催やパンフレットの作成を予定している。

請願「三重県文学関係資料の収集・保存について」

- 1 期 日：平成19年12月14日（金） 常任委員会で採択
- 2 請願事項：

三重県の新博物館資料として文学関係資料の収集・保存を積極的にすすめられたい。

新博物館実現に平行し、併せて以下の事項について留意をはかられたい。

 - (1) 三重県生活部が行った文学関係資料の収集・保存の継続
 - (2) 三重県立図書館・文学コーナーの充実
- 3 質疑事項
 - ・ (質疑) 「生活部としても、公文書だけでなく文学的な資料の保存を積極的に進めてもよいと考えているのか。
 - (部長) 今回の「三重の文化振興方針（仮称）」（中間案）の考え方では、博物館も図書館も公文書館も一体的に運営していくことを基本としており、そのような考え方はベースになると思う。

会派からの要望「新政みえ 平成20年度予算政策要望」

- 1 要望日：平成19年12月20日（木）
- 2 要望事項：
 - (7) 新博物館の構想については、県議会（政策討論会議）による「新県立博物館整備にかかる基本的考え方」を尊重し、早急に基本計画を策定し、県民の合意を得ること。
- 3 回答案（知事手持ち） 現段階では、新政みえから文書回答を求められていません。

三重県文化審議会に諮問した、三重の文化振興の基本的な考え方を踏まえた「新博物館のあり方について」は、平成20年2月上旬頃答申されることとなっています。

県は、この答申に、県議会からの「新県立博物館整備にかかる基本的考え方」やパブリックコメントなどを通じて寄せられた県民の意見を反映させた「新博物館基本構想（仮称）」を、19年度末までに、策定することとしています。

また、基本構想に示した考え方を具体化するための基本計画を早急に策定することが必要であり、生活部が、20年度当初予算として、基本計画策定及び広聴広報等のための所要額を要求しているところです。20年度には、これら一連の取組を通じて、県民の合意形成を図っていきたいと考えています。

会派からの要望「2008年度 三重県の予算編成に対する提案・要望」

日本共産党三重県委員会

- 1 要望日：平成19年12月21日（金）
- 2 要望事項：
 -) 4 . 新県立博物館の建設にあたっては、文化遺産の保全・公開・展示にとどまらず、子どもの教育や生涯学習の拠点施設としての機能を十分に果たせるものとし、県民への負担が重ならないように財政計画をよく練り上げてください。
- 3 回答案 1月下旬に回答予定です。

現在、新博物館の理念や目的、基本的な機能も含めて、新博物館のあり方について三重県文化審議会に諮問しているところです。

文化審議会がまとめた「新博物館のあり方について」（素案）においても記述されていますが、生涯学習や学校教育との関係について、県立博物館は、県民一人ひとりの自主的な学びと自己実現のための多様な支援を行う生涯学習拠点として、また、学校教育との連携を含めて、次代を担う子どもたちに、博物館のモノ資料やさまざまな活動をとおして三重の自然と歴史・文化に興味や関心をもつきっかけを提供する場として、子どもの育成にも役立つべきであると考えています。

また、今後、博物館の整備及び運営に必要な財源については、民間活力等の活用も含めて、効率的・効果的な手法等により確保していけるよう検討を進めるとともに、県民の皆さんへの十分な説明を行い、合意形成を図っていきたいと考えています。